

第7回審議会資料に基づく事前意見を踏まえた修正（案）について

基本施策名	修正前	修正後
3. 多文化共生	【現況と課題】 2点目の次に追記	○外国人市民の国籍別構成を見ると、リーマンショック前の平成20(2008)年4月は、ブラジルやペルー国籍を中心とした南米系の外国人市民が約68%を占めていましたが、近年は特にベトナムやフィリピン国籍を中心としたアジア系の外国人市民が増加し、平成31(2019)年4月現在では、南米系が約47%、アジア系が約50%を占めるようになり、外国人市民とのコミュニケーションに必要とされる言語や対応の方法が変化してきています。 ○外国人市民の中には、日本語の読み書きが全くできない方も一定数存在し、就労や就学に影響しているものと考えられます。そのような中、令和元(2019)年6月28日に日本語教育推進法が施行され、日本語教育を受ける機会の確保などについて、地域の状況に応じた施策の実施が求められています。
	【展開方向1】手段の3点目 ○小牧市国際交流協会や企業などと連携し、外国人市民の生活やコミュニケーションを支援します。	○小牧市国際交流協会、企業、NPO、地域コミュニティ組織などと連携し、外国人市民の生活やコミュニケーション、日本語教育などを支援します。
9 介護・高齢者福祉	【展開方向4】手段の1点目 ○老人福祉センターやふれあい・いきいきサロンなど高齢者が集い、楽しめる場所を創出します。	○老人福祉センターやふれあい・いきいきサロンなど楽しく・生きがいあふれる憩いの場を創出します。
	【展開方向4】手段の2点目 ○シルバー人材センターの活動を支援します。	○高齢者能力の活用を図るため、シルバー人材センター*の活動を支援します。

基本施策名	修正前	修正後
9 介護・高齢者福祉	【展開方向4】手段の3点目 ○老人クラブ活動を支援します。	○住みよい地域づくりが進むよう、老人クラブ活動を支援します。
13. 学校教育	【現況と課題】2点目 「学校が楽しいと思うこどもの割合」は平成25(2013)年度の92.7%から平成29(2017)年度の91.3%へと減少しています。一方、児童の授業理解度(小学国語)は平成25(2013)年度の76.2%から平成29(2017)年度の79.8%へと上昇し、生徒の授業理解度(中学国語)は平成25(2013)年度の68.6%から平成29(2017)年度の72.4%へと上昇しています。	「学校が楽しいと思うこどもの割合」は平成26(2014)年度の90.8%から平成30(2018)年度の91.2%へと上昇しています。また、児童の授業理解度(小学国語)は平成26(2014)年度の79.1%から平成30(2018)年度の79.4%へと上昇し、生徒の授業理解度(中学国語)は平成26(2014)年度の71.3%から平成30(2018)年度の72.2%へと上昇しています。
	【現況と課題】4点目 小牧市の千人あたりのいじめの認知件数は、平成29(2017)年度、小学校34.3件(全国49.1件)、中学校61.4件(全国24.0件)、全体43.3件(全国30.9件、愛知県22.8件)となっています。	小牧市の千人あたりのいじめの認知件数は、平成30(2018)年度、小学校56.7件(全国66.0件)、中学校114.1件(全国29.8件)、全体75.3件(全国40.9件、愛知県32.1件)となっています。
	【展開方向2】手段の2点目 ○日本語指導が必要な児童生徒を支援するため、語学相談員※などによる支援を強化します。	○日本語指導が必要な児童生徒を支援するため、語学相談員※などによる支援を強化するとともに、市民活動団体との協働に取り組んでいきます。
	【展開方向3】手段の3点目 ○衛生管理を徹底するとともに食物アレルギーへの対応に取り組めます。	○食物アレルギーへの適切な対応に努めるとともに、市民活動団体との協働に取り組んでいきます。
14. 教育環境	【展開方向1】手段の3点目 ○関係者と連携して通学路の安全確保を図ります。	○学校、警察、道路管理者などと連携して通学路の安全確保を図ります。

基本施策名	修正前	修正後
17. 男女共同参画	【展開方向2】手段の2点目 ○育児・介護休業制度などの情報を提供するとともに、企業向け講座を開催します。	○育児・介護休業制度や保育・介護サービスについての情報提供をするとともに、女性が社会で活躍していくための環境の整備を支援します。 ○女性のネットワーク形成を推進するため、女性団体の活動を支援します。
	【展開方向3】手段の1点目 ○女性が抱える悩みの解決に向けた相談体制を整備します。	○女性が抱える悩み、トラブルの発見や解決に向けて地域や市民活動団体と協力した相談体制を整備します。
19. 文化・芸術	【現況と課題】3点目 小牧の歴史・文化に興味・関心を持っている市民の割合は、平成25（2013）年度の63.1%から平成29（2017）年度には53.8%まで減少しています。	小牧の歴史・文化に興味・関心を持っている市民の割合は、平成25（2013）年度の63.1%から平成30（2018）年度には58.1%まで減少しています。
	【展開方向3】手段の2点目 ○歴史や文化財に関する展示会や講座を開催します。展示会や講座は若者世代の興味・関心を引くような内容の開催を検討します。	○歴史文化の分野で活動する市民活動団体や大学などと連携し、歴史や文化財に関する展示会や講座を開催します。展示会や講座は若者世代の興味・関心を引くような内容の開催を検討します。
	【展開方向3】手段の3点目 ○「れきしるこまき（小牧山城史跡情報館）」を活用した小牧山を中心とする歴史・文化遺産を情報発信します。	○「れきしるこまき（小牧山城史跡情報館）」を活用した小牧山を中心とする歴史・文化遺産を指定管理受託団体である（一財）こまき市民文化財団や市民活動団体などと連携し、情報発信します。
24. 市街地整備	【展開方向1】 手段の1点目の前に追記	○市民や地域の意見を積極的に取り入れながら、計画策定などを実施します。
30. 住宅	【展開方向1】手段の1点目 ○耐震診断の結果、耐震化が必要と診断されたが、耐震改修を実施していない住宅を個別訪問することで耐震改修を促します。	○耐震診断の結果、耐震化が必要と診断されたが、耐震改修を実施していない住宅の戸別訪問や防災・減災施策と連携して啓発・PRすることで市民意識の高揚を図り、耐震改修を促します。